

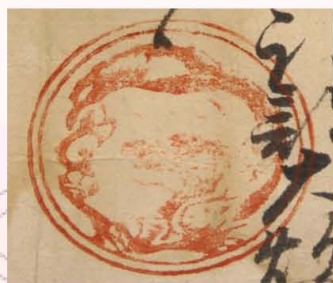
文書館だより

TEL 027(221)2346

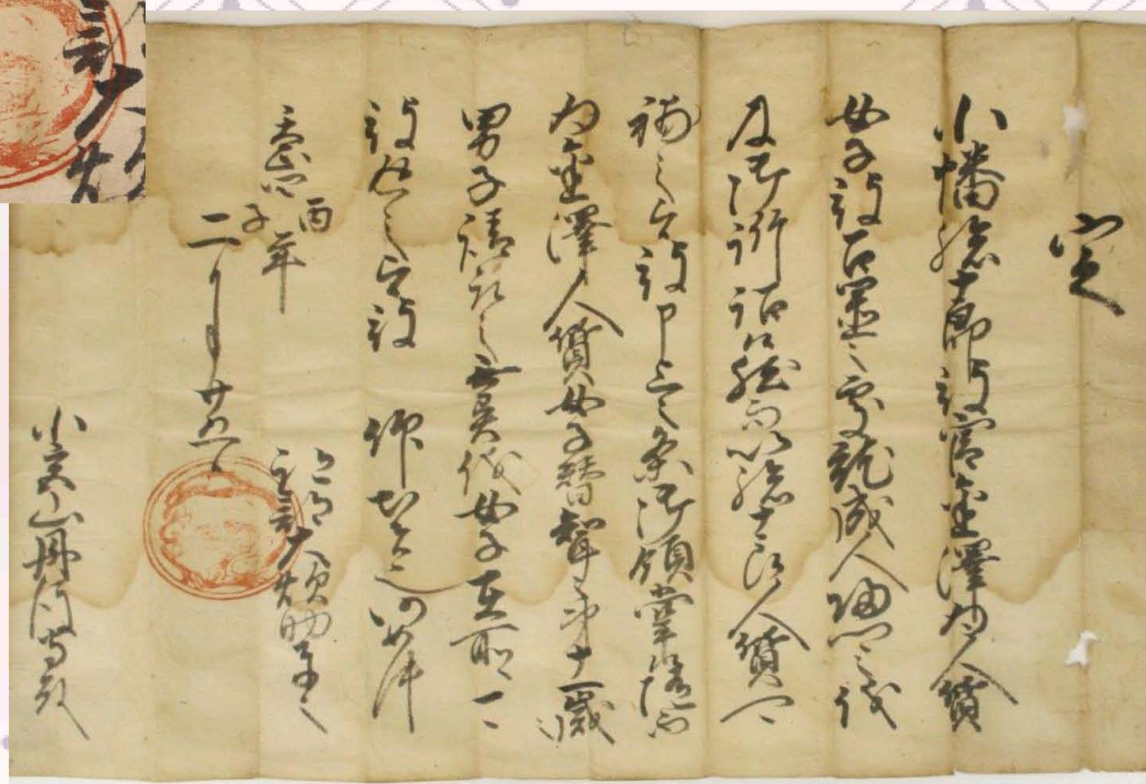
URL <http://www.archives.pref.gunma.jp>

第51号

平成25年9月



(朱印部分拡大)



表紙写真

「武田家定書」

三二一〇cm×四六・四cm
(天正四年P〇九八〇五No.二)

戦国大名武田勝頼が国峰(甘楽町)の小幡氏家臣の人質交換を命じた古文書です。

小幡氏の家臣金澤氏から、人質(女子)が成人したので帰郷させて欲しいという訴えがあり、勝頼は小幡氏が人質を補うことで了承しました。実際には金澤氏の婿の弟である十一歳男子を受け取ることを条件に、帰郷させるように命じています。

差出の跡部大炊助(勝資は信玄・勝頼の側近で、在地領主と大名との取次を行っています。受取の小宮山丹後守も武田氏の家臣で上野国に派遣され、在地領主に指示を出す立場であったと考えられます。差出は跡部ですが、「被 仰出候也」という文言や朱印が押されていることから、事実上勝頼からの命令です。

朱印は、龍をかたどり、中央が顔で円の周囲を体が沿うように構成されています。左側は爪でしょうか。

古文書の様式は奉書で、中世文書では「奉」は「たてまつる」ではなく、「うけたまわる」と読みます。

当館では武田氏のほか織田信長・豊臣秀吉・足利義昭など、およそ二十点の戦国時代の古文書を収蔵しています。是非お手にとってご覧下さい。

(釈文は『群馬県史』資料編七 二八三八を参照)

文書館視察

四月二日に大澤知事が文書館に来館され、閲覧室、収蔵庫、収蔵資料など1時間半ほど館内を視察されました。

また、四月十九日に県教育委員の皆さんが来館され、六月二十七日に県議会の文教警察常任委員会の皆さんが来館され、整理作業、収蔵庫、閲覧室を視察されました。

多くの皆様にご視察いただきまして、文書館の重要性、史料保存の重要性を理解していただき、大変ありがたく思っています。



お茶の間古文書講座

文書館では平成十七年一月以来、ホームページ上で「インターネット古文書講座」(ぐんまの古文書、全一〇四回)を開講してきましたが、本年九月から新たに初心者向けの「お茶の間古文書講座」を始めました。

本講座は、これから江戸時代の古文書の解読に取り組んでみたいという方を対象としたものです。テキストは、①「慶安御触書」(ほつぶ編)、②「五人組帳前書」(すてつぶ編)、③「浅間山大変記」(じやんぶ編)の三点で、毎月初めに更新して全二十四回にわたる連続講座です。各テキストには古文書の写真版のほかに、釈文・読み下し文・用語解説等をレベルに応じて付してありますので、自宅のパソコンで自らの学習レベルに合わせてテキストを選択してご利用ください。

なお、すでに古文書の学習経験がある方には引き続き「インターネット古文書講座」をお薦めします。また文書館では今年度から新たに「出前なんでも講座」(古文書に親しむ、随時受付中)も始めましたので、地域の公民館活動や古文書学習団体等の研修にご利用ください。

新たに閲覧できる 古文書

◎前橋市住吉町・藤井新兵衛家文書

前橋で生糸・穀物の取引や質屋を営んだ同家の文書群。幕末期以降の商売関係史料が多く、「店卸帳」「大福帳」などがその中心。明治初期の婚姻・出産などの冠婚葬祭に関する史料も多い。

第一次公開 八八五点(P九二〇一)

◎前橋市五代町・摩庭進家文書

江戸時代に勢多郡五代村の村役人を務めた同家の文書群。近世文書は、年貢割付状・水帳・名寄帳などの貢租関係文書、村行政関係文書など。質地証文・金子借用証文・典籍類なども多い。

五二二点(P〇一〇五)

◎前橋市東大室町・松村孝志家文書

江戸時代に勢多郡東大室村の名主・組頭などを務めた同家の文書群。近世文書の内容は、村行政、村況・戸口、土地、貢租などで、特に金融関係が多い。

七二三点(P〇七〇四)

◎前橋市本町・松井家旧蔵文書

近世前橋町の町名主を務めた同家の文書群。①松井家に伝存した近世から近現代に至る文書群と、②松井家が昭和期に古物商として収集した史料からなる。

一九一七点(P〇一〇一三)

◎高崎市四ツ屋町・土屋喜英家文書

本文書群は、①土屋家に伝来した史料、②喜英氏が購入・収集した史料、③本多夏彦氏収集史料のうち喜英氏が譲り受けた文芸関係史料(主に漢詩・俳諧など)からなる。

五二八点(P一一〇三)

◎吾妻郡東吾妻町・丸山正史家文書

本文書群は、同家の文書(吾妻郡須賀尾村)と、文書館調査員の丸山不二夫氏が収集した群馬県内の文書類からなる。吾妻郡伊勢町文書、勢多郡猫村文書、吾妻郡須賀尾村渡辺(部)家文書、同村丸山家文書(材木関係)など。

一七九点(P一一〇四)

◎吾妻郡吾妻町・大戸区有文書

①大戸村関係史料と②大戸関所関係史料の文書群。①は、名寄帳、寛文年間から幕末期の年貢割付状や皆済目録など。②は、関所普請と関所役人に関する文書、絵図類など。

マイクロ複製一七三七点(P〇九〇五)、

古文書一五〇点(P〇五〇六)

新たに収録した
公文書

管理受任等 平成二十四年度に管理委任、引継ぎにより県の各機関から受け入れた文書は、一、七四三冊でした。

(詳細は表1のとおり)

表1

平成二十四年度管理受任文書の課室別冊数

課室名	冊数	課室名	冊数	課室名	冊数
総務課	1	森林保全課	11	都市計画課	75
学事法制課	212	農政課	228	下水環境課	10
市町村課	24	技術支援課	62	選挙管理委員会	20
危機管理室	10	農村整備課	36	知事部局合計	1,684
消防保安課	77	産業政策課	34	管理課	40
健康福祉課	40	商政課	429	文化財保護課	19
医務課	32	労働政策課	13	教育委員会合計	59
介護高齢課	11	産業人材育成課	180	総計	1,743
薬務課	14	監理課	58		
林政課	89	道路管理課	18		

収集 平成二十四年度の文書整理において県庁各所属が廃棄した文書資料の中から文書館が歴史資料として収集したものは四、二三七冊でした。(詳細は表2のとおり。なお、管理委任解除とは、保存期間が満了し、管理委任を解除された文書から収集したもの)

表2

平成二十四年度収集文書部局別冊数

部局名	冊数	部局名	冊数
総務部	125	会計局	8
企画部	64	議会事務局	2,417
生活文化部	24	人事委員会事務局	1
健康福祉部	120	監査委員事務局	5
環境森林部	148	労働委員会事務局	4
農政部	67	教育委員会事務局	180
産業経済部	83	管理委任解除	427
県土整備部	564	合計	4,237

(参考)

平成二十三年度の状況

- ・管理受任等 一、一二〇冊
- ・収集 一、五八八冊

平成二十四年度 ミニ企画展Ⅱ
**「群馬の礎を築いた
初代県令榎取素彦」** 開催報告

当館では、收藏された歴史資料とそれらを保存することの意義について、県民の皆様により深く知って頂くために年間を通じて様々な展示活動を開催しています。二十四年度後半では、ミニ企画展Ⅱとして、没後一〇〇年を迎えた初代県令榎取素彦の主要な施策に関わる資料を紹介しました。二月九日から五月三〇日(延長も含む)の期間中に四七八名の方にご覧頂きました。

榎取素彦は、現在の山口県萩市の出身で、藩校明倫館に学び、吉田松陰の妹と結婚し、松下村塾でも教育にあたりました。また、幕末の長州藩で藩主の側近として様々な重要な役目を果たしています。維新後は、足柄県参事、群馬県権令、熊谷県令等を歴任し、明治九(一八七六)年、新たに発足した群馬県(第二次群馬県)の初代県令となり、約一〇年間、伝統産業の養蚕・製糸業を奨励や、教育の充実に力を注ぐ等、草創期の群馬県政に貢献しました。その後、元老院議員、宮中顧問官等に任命され、大正元(一九一二年)八月十四日に山口県の防府市で亡くなりました。

今回のミニ企画展では、榎取素彦が県令であった時期の「群馬県行政文書」(国重要文化財)をはじめとする当館収蔵資料から、「榎取素彦の伝記」、「産業振興」、「文化振興」、「県庁の前橋移転」、「榎取素彦と教育」、「榎取素彦の県令退任」の小テーマで榎取の県政における足跡を追いました。

様々な業績は、当たり前のことながら榎取一人だけのものではありませんが、明治初期の大きな社会変化の中で、榎取素彦という県令が着任し、リーダーシップを発揮したことが、今につながる本県の基礎固めとなったことを感じて頂けたのではないかと存じます。また、歴史的事実を裏付けるための公文書等の管理・保存の大切さについても理解頂けたのではないのでしょうか。

なお、会期中に大澤正明知事が来館、展示も観覧されました。



コーナー展示 I

日向見葉師堂の明治期からの指定の変遷が分かるほか、世良田東照宮、長楽寺、赤城神社、榛名神社、妙義神社に関連した絵図などを紹介しました。

従来のミニ企画展を見直し、平成二十五度から新たにコーナー展示を始めました。今年度は「ぐんまのたからもの」を統一テーマに掲げ、一ヶ月単位で展示の入替えを行い、文書館に収蔵されている文書等について、当館展示室で広く紹介しようとするものです。

まず、パート1として「文化財」に焦点をあて、二回に分けて展示しました。

①【記録のなかの東国文化】

六月七日(金)～七月七日(日)

明治期に県内各地で発見、報告された遺跡や遺物に関する「古書古器物書類」をはじめ、昭和四十七年に山口県の防府天満宮から群馬県に返還された「楯取素彦旧蔵文書」の中に見られる古墳に関する記述、文書館周辺の古墳の様子を記録した昭和初期の実測図や絵図などを展示しました。

②【文化財になった神社とお寺】

七月十一日(木)～八月八日(木)

現在、文化財保護法により国や県の重要文化財に指定されている神社やお寺について、図面類を中心に紹介しました。玉村八幡宮、板倉雷電神社、貫前神社、

パート2は

「教育」に焦点をあて全2回で科目を入れ替えて開催しました。明治期に群馬県で作成した教科書(複製本)を実際に手に



取って見られるコーナーも設けました。

③【教科書 今むかし①】

八月十日(土)～九月八日(日)

明治以降の近代教育や教科書制度の変遷をパネル等で紹介するとともに、明治・大正・昭和・平成期に実際に使用されていた「国語・算数・修身・音楽」の教科書を展示しました。

④【教科書 今むかし②】

九月十日(火)～十月六日(日)

「理科・社会・図工・英語」の教科書を今むかしで対比させてみました。閲覧室で原本をご覧いただくことができますので、是非ご利用ください。

国際アーカイブズの日

レッツゴー!もんじょかん

—ぐんまの記録を未来へ伝える仕事—

●「国際アーカイブズの日」とは…

昭和二十三年(一九四八)六月九日、文書や記録の保存や利用について、世界中の公文書館の相互の連携を強め、その発展に貢献することを目的として、国際公文書館会議(ICD)が発足しました。この発足の日を記念して、平成二十年(二〇〇八)、ICDは六月九日を「国際アーカイブズの日」と決めました。当館では、より多くの皆さんに文書館の存在や意義を知っていただこうと、平成二十五年六月八日(土)、記念行事を開催しました。内容は、映像資料の上映会、施設見学会、体験コーナーです。

当日は約七〇名の方にご参加いただき盛況の内に終了しました。

●上映会

「ニュース映像で綴る戦後ぐんまの歩み」(平成二年県広報ビデオ)

戦災による焼け野原、たび重なる台風被害を乗り越え、産業復興、東京オリンピックでの聖火リレー、県内各地の有料

道路の完成、上越新幹線の開通など、戦後ぐんまの歩みをたどるビデオです。「思いがけないひとときだった」「懐かしく感激した」「大変よかった」等の感想をいただきました。

●見学会

館内の書庫や閲覧室をご案内しました。「保存・保管の苦労が感じられた」「古文書や重要文化財の資料が保管されている場所に入れて興味深かった」と、こちらも好評でした。

●体験コーナー

①和綴りでメモ帳作り

(製本技術「和綴じ」の体験)

②昔のすころく遊び

(当館で収蔵する明治・大正期のすころく遊び)

年齢、性別を問わず、参加者の皆さんはこよりに作りに熱中。楽しんでいただくことができました。



発行／群馬県立文書館
http://www.archives.pref.gunma.jp
題字／岡庭征人書